

副詞“也”の用法について

椿 正 美

0. はじめに

副詞“也”を含む構文「NP + “也” + VP」は多くの場合、主語の不同と述語の同義または類義を条件とする並列複文の後部フレーズに用いられ、該当部分“A也B”の日本語訳には「AもBする」が与えられる。ところが、黎錦熙1992は、“也”の機能に柔軟性が含まれ、用法が述語の重複のみに限定されるものではないことを指摘し、述語の不同を条件とする複文での“也”使用も認めている。

述部の内容が異なる形式の“A也B”部分は、日本語訳が「AはまたBもする」となり、全体の文意はかなり異なったものになる。例えば“他也是老师。”は次の二通りの日本語訳が可能である。

- ①「彼も教師である」 ②「彼は教師でもある」

①の訳出は“也”の係る位置を主語、②の訳出は述語に推定した結果である。“也”の係る箇所を選定は、通常は前後の文脈からの判断が唯一の方法とされているが、教材や試験問題等で単文（後部）のみが提示された場合、その選定の基準は判然とせず、訳出の過程で誤解が生ずる可能性もある。

本論では文学作品や辞書類等に用いられた複文形式での“也”使用例を挙げ、構文の解釈法を選定する基準の解明を試みる¹⁾。

1. 問題提起

呂叔湘1980は複文に用いられる“也”の作用について「二種類の内容の相同を示

(1) 例文の出典については<用例出典>にて明記。

す」と定義し、置かれる位置を前後の両部または後部であると指摘している。また、“也”の使用条件に関しては、前後フレーズに配された構成要素の共通部分と異同部分の箇所によって五項目に分類し、本論で調査対象となる形式は①“主語不同，谓语相同或同义”②“主語相同，谓语不同”に当たる⁽²⁾。但し、本論で用いられる“谓语不同”には、述語の不同のみでなく、述語の相同と目的語の異同によって形成される、述部全体から見た不同の状況も含まれるものとする。

資料として扱った各作品中に於ける“也”の使用数をパターン別に明記すると、次のようになる。

表1

	主語不同，谓语相同或同义	主語相同，谓语不同
子 夜	1095	229
紅 岩	687	111
駱駝祥子	590	157
雪 国	225	51

上記の表によれば、副詞“也”全使用数に於ける“主語相同，谓语不同”の使用頻度は『子夜』17%、『紅岩』14%、『駱駝祥子』21%、『雪国』18%となり、この形式の使用が極めて特殊であることが分かる。

馬真1982は“也”使用複文の構造を表示し、前後フレーズに含まれる構成要素の関係によってA〈XW,Y也W〉B〈XW1,X也W2〉C〈XW1,Y也W2〉三方式に分類している。この中で“谓语不同”を含む形式はBまたはCに当たるが、Bは使用例が極めて少なく、本論の参考資料では次の一例のみが確認される。

(1) 他能够残酷，他也能够阴柔。(子)

(2) 呂叔湘1980によって分類された複文形式の五項目には、①②の他、③“主語不同，谓语不同”④“主語，动词相同，宾语不同”⑤“主語，动词相同，动词的附加成分不同”が含まれる。

馬真1982は複文の前後フレーズに含まれる主語が同じ場合、後部主語の省略を認め、公式〈XW1, (X) 也 W2〉を設定している。例文を次に挙げる。

(2) 这是快乐的眼泪, 也是决心的眼泪。(子)

(3) 他会车工, 也会钳工。(漢)

(2)(3)のように〈XW1, 也 W2〉の形式によって構成された複文が揭示された場合、W2の主語に該当する語彙がXである点は容易に理解できる。ところが、揭示される部分が後部フレーズに当たる単文形式〈(XまたはY) 也 (W1またはW2)〉に限定された場合、“也”の係る位置は推定が困難となる。

本論では、“也”が使用された複文を並列、連続、累進に分類し、“也”の単独使用、また他語彙との共起による使用例等を挙げ、各複文に配された構成要素の関係を分析し、上記B方式〈XW1, X 也 W2〉としての解釈を導くための条件について探る。

2. 並列複文（“并列复句”）の目的語に含まれる対立的要素

2. 1. 「同時存在」表示の範囲

複文の前後フレーズに異義語が構成要素として配され、且つその内容に並列関係が成立する場合、関係表示に“也”が用いられる。崔永華1997は、この“也”を添加句と指摘し、語義を「同時存在の表示」と記している⁽³⁾。ところが、このような構成要素の内容には、対立その他の理由による差異が生じることもあり、「同時存在」の条件には限度があるものと判断される。

複文の前後フレーズの並列関係が“也”によって表示される例文を次に挙げる。

(4) 这是一次教训, 当然, 也是一种不可避免的社会现象。(紅)

(5) 他是理想的, 同时也是实际的。(子)

(3) この場合の「同時存在」とは、並列関係にある前後フレーズに配された構成要素に同等の価値が含まれる現象を指す。

上記は“是”を共通の述語とした複文の前後フレーズの関係表示に“也”が用いられた例である。(4)では各フレーズに配された目的語“教训”“社会现象”に含まれる価値の類似性が根拠となり、ここに並列関係の成立が確認される。各目的語は同一の主語“这”に対する二通りの比喩的表現として掲示され、両者の関係には崔永華 1997 の主張内容に含まれた「同時存在」の条件が満たされている。

ところが、(5)の場合、前後フレーズに配された目的語“理想的”“实际的”は共通の価値を具えているが、主張内容について更に追究すれば両者は明らかに反意語であり、相互間には対立関係が生じている。このことから“也”によって「同時存在」を表示される語彙の内容には、対立的要素が含まれる場合もあると考えられる。

“也”による目的語「同時存在」の表示は、特に動詞“有”の使用文に多く見られる。次に例文を挙げる。

- (6) 他有经验，也有办法。(中)
- (7) 仿佛街上没有人，也没有东西。(駱)
- (8) 我们中间有南方人，也有北方人。(漢)

上記は“有”または“没有”を共通の述語とした複文の前後フレーズの関係表示に“也”が用いられた例である。

(6)では共通の述語が“有”となり、主語“他”との関連を有する前後フレーズには並列関係の成立が認められる。両フレーズに配された目的語“经验”“办法”は共に“他”の所有物に当たり、その状況には「同時存在」が認められる。

(7)では“街上没有”が共通の条件として掲示され、“也”によって「同時存在」が認められる前後フレーズの目的語には“人”“东西”が該当する。(8)では“我们中间有”が共通の条件となり、前後フレーズの目的語には“南方人”“北方人”が該当する。(7)(8)の構成を図式化すると、次のようになる。

図1

(7) “仿佛” + “街上” + [“没有” + “人”] + “也” + [“没有” + “东西”]
↑ 同時存在 ↑

(8) “我们中间” + [“有” + “南方人”] + “也” + [“有” + “北方人”]
↑ 同時存在 ↑

但し、「同時存在」として価値の共有を示されている(7)“人”“东西”の関係について更に分析すれば、前者は「生物」、後者は「無生物」を示す表現として捉えられ、相互間には狭義に於ける対立関係の成立も認められる。(8)では“南方人”“北方人”に含まれた方位詞に同様の関係が生じている。このように、対立関係の表示に用いられた連結詞としての“也”は、後部の条件を強調して内容が広範囲にわたる状態を示すと判断される⁽⁴⁾。

上述の機能を有した“也”は、複文に配された目的語だけでなく、補語を含んだ補充フレーズの関係表示にも適用されている。次に例文を挙げる。

(9) 有的听得出，也有听不出的。(雪)

従って“也”によって前後フレーズの関係を表示される並列複文では、目的語に対立的要素が含まれることが多く、条件として掲示される「同時存在の表示」には対立関係の強調も作用として含まれると判断される。

2. 2. 添加句“也”に含まれる説明機能

上記“是”“有”使用文では、目的語の内容は文中の〔主語＋述語〕への対応を条件とする具体的な事物に限られるため、数量や性質には制限があったが、述語が心理状態を示す動詞である場合には範囲が広がり、目的語に成立する対立関係の内容は更に幅広いものとなっている。そのような動詞を使用した並列複文に見られる、目的語に対立関係の成立が確認された例を次に挙げる。

(4) ハシモト 1986 は接続結合 (conjunctive conjoining) 構文に於ける広範囲の連結詞使用の可能性について供述している。

(10) 他想知道过去，也想将来。(紅)

(11) 祥子晓得妇女的厉害，也晓得妇女的好处。(駱)

(10)では“他想”に対応する目的語として前後フレーズに配された“过去”“将来”に対立関係が認められる。(11)では“祥子晓得”に対応する目的語として配された“妇女的厉害”“妇女的好处”に対立関係が認められ、“厉害”“好处”部分がその要素に当たる。両例文の構成を図式化すると、次のようになる。

図2

(10) “他” + [“想” + “过去”] + “也” + [“想” + “将来”]
↑ 対立関係 ↑

(11) “祥子” + [“晓得” + “妇女的厉害”] + “也” + [“晓得” + “妇女的好处”]
↑ 対立関係 ↑

上記の例文では、反意語を配されたフレーズの添加に“也”が用いられ、表現内容の範囲が非常に広いことが示されている。

これらの表現では、反意語が配された後部の添加によって範囲の広さを説明し強調する、添加句としての“也”の作用が見られる。このように、添加句“也”は極端な対立関係にある構成要素が含まれた前後フレーズの関係表示に用いられ、「前部の内容に対する説明または強調を目的として後部を添加させる機能」が有効に発揮されている。

次に挙げる文は、“也”に含まれたこのような機能の発揮が見られる例である。

(12) 我的身体很好，也不需要理发。(紅)

(13) 骆驼的命运也就是他的命运。(駱)

(12)では“我的身体很好”の状態を更に詳しく説明するものとして“不需要理发”が添加され、後部に配された“也”は説明部分の後続を示す添加句としての機能を発揮している。(13)は複文ではないが、ここでは“骆驼的命运”に含まれる別の価値“他的命运”の添加に“也”が用いられ、“就是”によってその内容が更に強調され

ている。

相反する情況説明の後続によって効果を発揮する添加句“也”には柔軟性が伴われ、前後フレーズに生じる間隔の範囲は限定されていない。従って、対応する述語には具体的事物を指示する“是”“有”にとどまらず、心理的描写に応用される“想”等、多くの動詞が適用されている。このような表示範囲に於ける柔軟性、また説明や強調等の表示機能から、添加句“也”は対立的要素が含まれた構成要素を含むフレーズの関係表示には適切であったと判断される。

2. 3. “既”との共起による作用

複数の構成要素による同時発生を強調するためには、“既”との共起による呼応形“既～也～”も使用される⁽⁵⁾。“也”に含まれる作用を更に分析するため、ここでは“既”との共起による効果について探る。次に例文を挙げる。

(14) 就可惜你既不是资本家，也不是工人。(子)

(15) 他既哀怜驹子，也哀怜自己。(雪)

(14)では“你”の身分が“资本家”“工人”共に該当しない情況、(15)では“他哀怜”の対象に“驹子”“自己”両者が含まれる情況が表され、各複文の前後フレーズの関係表示に“也”が用いられている。

(14)の場合、“资本家”“工人”に含まれた階級名という内容の共通性が根拠となり、「同時存在」の状態にある複数事物に対する関係表示の作用を“也”に認めることができる。しかし、“资本家”“工人”に含まれる語義について更に分析すれば、両階級の間には身分の著しい格差が見られるため、双方に対立的要素の存在を認めることも可能になる。この結論を重視すれば、“既～也～”の作用には前後フレーズに成立する対立関係の強調も含まれると判断される。

(15)では“他哀怜”の対象が“驹子”のみでなく“自己”も含まれる情況が示され

(5) 中川 1995 は“既～也～”について、述部を構成する用言フレーズを繋いで「同時存在」を表示する形式と指摘し、主部を構成する体言フレーズを繋いで和集合を表示する“～和～都”と区別している。

存在しない場合には、後部に配された述語の発生に対し、それを導く可能性が前部の内容に含まれることが連続関係の成立を認める根拠となる。

4. 累進複文（“递进复句”）の目的語に含まれる拡張的要素

4. 1. “不但／不仅”との共起による作用

前後フレーズに累進関係が成立する複文にも“也”が用いられる。この場合、後部に配された目的語は、数量または規模等に関して前部に配された目的語に拡大変化が生じた結果の表示ともなっている。次に例文を挙げる。

(19) 她恨死了屠夜壶和姚金凤他们，也恨死了所有去上工的女工。（子）

(20) 这是江姐的胜利，也是大家的胜利。（紅）

(19)では“她恨死了”を共通の条件とし、前部では限られた対象を表す“屠夜壶和姚金凤他们”、後部では全ての人員を含む“所有去上工的女工”が配されている。(20)では“胜利”の所有者に対する描写として“江姐”“大家”が揭示され、前者を個人描写、後者を全体描写と解釈すれば、両者に含まれる内容の規模には拡大変化が認められる。以上の現象が根拠となり、(19)(20)は共に累進複文に属すと判断される。

本論では累進複文の各フレーズに配された構成要素に成立するこれらの関係を拡張と呼称する。両例文の構成を図式化すると次のようになる。

図5

(19) “她” + [“恨死了” + “……他们”] + “也” + [“恨死了” + “……女工”]
↑ 拡張関係 ↑

(20) “这” + [“是” + “江姐的胜利”] + “也” + [“是” + “大家的胜利”]
↑ 拡張関係 ↑

並列複文に於ける“既”との共起による対立関係の強調作用と同様、累進複文に於いても“也”には他語彙との共起によって前後関係を強調する作用が含まれる。馬真2001は、累進複文の表現方法として連詞“不但”または“不仅”と“也”との共

起による呼応形“不但／不仅～也～”を挙げている。次に例文を挙げる。

(21) 不但想起虎妞，也想起一切。(駱)

(22) 保护政治犯的安全，不仅是你们的责任，也是我们的责任。(紅)

(21)では“想起”の対象として前部に配された“虎妞”、後部に配された“一切”に拡張関係の成立が認められる。(22)では“安全”に対応する“責任”の所有者が“你们”から“我们”へと変化している。共に人称詞である“你们”“我们”の価値は同等との解釈も可能であるが、数量が限られた“你们”に“我们”を加えたことにより明らかに該当者の増加が表現されているため、両語彙に成立する関係は拡張と判断される。(21)“不但”(22)“不仅”には条件の内容が前部の叙述部分に限定されないことを強調する作用があり、後部での叙述内容に効果が発揮されている。両例文の構成を図式化すると次のようになる。

図6

(21) {“不但” + [“想起” + “虎妞”]} + {“也” + [“想起” + “一切”]}
↑ 拡張関係 ↑

(22) {“不仅” + [“是” + “你们的责任”]} + {“也” + [“是” + “我们的责任”]}
↑ 拡張関係 ↑

“不但／不仅”との共起によって用いられる“也”には、単独の構成要素に成立する拡張関係のみに限定されず、フレーズ全体に成立する同様の関係の成立を表示する作用も含まれている。特に異なった動詞が前後に配された場合には、その効果ははっきりと認められる。次に例文を挙げる。

(23) 不仅不想跟什么不清不白的女人纠缠，恐怕对人也有一种不切实际的想法(雪)

この例文の前後フレーズに配された共通部分の関係について分析すれば、行為の対象に当たる前部“跟什么不清不白的女人”には特定の条件を具える限られた人間が該当するが、同様の描写に当たる後部“对人”には全ての人間が含まれ、内容の

規模に拡大変化が確認される。また、行為の内容に当たる前部“不想……纠缠”には実施に対する意志（否定形）、同様の描写に当たる後部“有一种不切实际的看法”には当事者が有する他の見解の存在（肯定形）が示され、前後に含まれる述部部分の内容は異なるが、後部“对人”の連結により明らかに該当者の増加が強調されている。従って、この例文ではフレーズ全体に於ける拡張関係の成立が確認される⁽⁶⁾。

以上のことから、呼応形“不但／不仅～也～”には構成要素及びそれを含む前後フレーズの拡張関係の成立を表示する作用が含まれると判断される。

4. 2. 異なった助動詞に含まれる消極的要素と積極的要素

前後フレーズに成立する関係の表示に“也”が用いられた複文には、共通の動詞が配され、対象とする助動詞のみが異なる形式も存在する。助動詞に拡張関係が認められる型もあり、その場合は累進複文として解釈される。次に例文を挙げる。

(24) 我应该自己走路，也能够自己走路了。（紅）

(25) 他们只能说这些，不能解决什么，也不想解决什么。（駱）

(24)では“自己走路”を共通の対象とする助動詞“应该”“能够”に異同が生じ、前者には〈強制〉、後者には〈可能〉を示す作用が含まれている。〈強制〉は主体が他者から受ける指示または主体自身が置かれた回避の不可能な現状に反応した作用であり、主体の態度に含まれる消極的要素が特徴となる。〈可能〉は他者からの影響よりも主体自身に託された能力によって発揮される作用であり、主体の態度に含まれる積極的要素が特徴となる。従って“也”には消極的要素と積極的要素を根拠とする関係表示の作用が含まれ、主体自身による実現への可能性という視点から捉えるならば、〈強制〉〈可能〉には拡張関係の成立が認められる。

(25)では“他们只能说这些”の部分が条件の揭示となり、“解决什么”を共通の対象として配された助動詞“不能”と“不想”に異同が見られる。前者には〈可能〉の否定、後者には〈意志〉の否定を示す作用が含まれ、主体の消極的要素から積極的

(6) 例文(23)の部分は、川端康成による日本語の原文では「今の身の上が曖昧な女のあと腐れをきらうばかりでなく、……非現実的な見方をしていたのかもしれない」とある。

する基準について更に深く分析する。尚、文中では“也”が主語に係る形式をA、述語に係る形式をBと仮称する。

5. 1. 構成要素との位置関係

副詞“也”に係る部分を判断するためには、文中に含まれる各構成要素と“也”との関係について詳しく把握する必要がある。次に例文を挙げる。

(27) 这雨也把游玩的人们催回家来。(子)

(28) 他也不是专门探求古代民间工艺遗迹的那种人。(雪)

(27)では主語“这雨”が孤立した存在である限り、“也”の作用はBと捉えられる。但し、“这雨”と価値を共にする他の事物が(27)以前の部分に存在する場合にはAと捉えることも可能となる。

(28)では“也”の作用をAと仮定した場合、条件には述部“不是专门探求古代民间工艺遗迹的那种人”の該当者に“他”以外の事物が含まれることが挙げられる。ところが、“那种人”は単数形であり、該当者は“他”に限られるので、“也”の作用はBと断定される。

(27)(28)に含まれる文意によれば、主語が複数の事物である場合には“也”の作用はA、単数の事物である場合にはBになる可能性が高いことが分かる。但し、主語が複数の事物である場合でも、その事物の全てに共通の価値が含まれると認められる場合には、“也”の作用をBと解釈することができる。次に例文を挙げる。

(29) 工人罢工，一半为钱，一半也为了几个人。(子)

文中に含まれる二種類の“一半”は、“工人罢工”の内容が“钱”“几个人”を目的として二分割された場合に生じる部分である。両者は同じ事物ではないが、二分割の過程を経ているため、含まれる規模は同等と捉えられる。従って、(29)では複数の“一半”が規模の上から単数としての存在価値を有する事物として用いられたと解釈され、“也”の作用はBと判断される。

以上の結論を導く根拠は、文中に含まれた各構成要素と“也”との位置や意味上の関係にあり、特に主語に当たる語彙が置かれた状況との関連が深い。

5. 2. “也”の連続使用

副詞“也”は文中の二箇所連続使用される場合もある。ここでは、連続使用された“也”がBB方式を構成した例とAB方式を構成した例を比較させ、生じる文意の違いについて探る。まず、BB連続方式について例文を挙げる。

(30) 刘玉英也不笑，也不说话，耐烦地等待那结果。(子)

(31) 他也不拉车，也不卖力气，凭心路吃饭。(駱)

上記の各例文の後部に配された“也”の作用は、(30)では“不笑”と“不说话”、(31)では“不拉车”と“不卖力气”に成立する同時存在の表示と捉えられる。前部“也”にも同様の機能が含まれ、その作用は連続して提示される動詞の否定表示に対する強調と解釈される。従って、(30)(31)に配された“也”の作用は共にBB方式となる。

このような“也”連続使用のBB方式は、拡張関係の表示にも用いられている。次に例文を挙げる。

(32) 我们也唱中国歌，也唱外国歌。(漢)

この例文では、動詞“唱”の目的語に当たる“中国歌”“外国歌”に拡張関係の成立が認められ、全体は累進複文と捉えられる。前部と後部の“也”は“唱”が反復使用される様を強調し、その作用はBと判断される。但し、文全体に含まれる構成要素の位置によっては、前部“也”の作用をAと解釈することも可能となる。

次にAB方式について例文を挙げる。

(33) 此时张素素也已经听明白，也笑了一笑。(子)

(34) 他也开始闻见路旁的草味，也听见几声鸟鸣。(駱)

(33)では用言フレーズ“听明白”“笑了一笑”に成立する連続関係の表示に後部“也”が用いられ、その作用はBとなる。但し、前部“也”に対する解釈は定まったものではなく、既に述べた理論に基づけば、(33)以前の部分に“张素素”以外の存在についての明記が確認される場合にはA、確認されない場合にはBとの解釈も可能となる。

(34)では用言フレーズ“闻见路旁的草味”“听见几声鸟鸣”に成立する「同時存在」の関係表示に“也”が用いられ、その用法はBとなる。前部“也”の用法を推定する根拠については、(33)の場合と同様である。

明らかに用法がAB方式と認められる文体には、前部“也”の直前に疑問詞“什么”、直後に動詞の否定表現が置かれた形式が該当する。次に例文を挙げる。

(35) 心里什么也没有想，也无需去想。(紅)

(36) 我们什么也没看出来，也没人到屋里去看她。(駱)

(35)(36)の“什么”は共に抽象的な価値を有する事物であるため、具体的な数量の表示は不可能であり、複数の存在であるとする確かな根拠は存在しない。文中では述語の否定を表示する“也没～”との連結によって“什么也没～”(「何も～ない」)が構成されるので“也”は主語に係ると捉えられ、その作用はAと判断される。

既に述べたように、副詞“也”の用法を解釈するためには、直前に置かれた語彙の条件について、それが孤立した存在であるのか、または集合体の一部を成すものであるのかを正確に把握する必要がある。連続使用された例文では、前部と後部の二箇所には置かれた“也”に対する解釈を進めるに当たり、多少の混乱が生ずる可能性もある。しかし、前部“也”の直前に置かれた語彙の条件や後部“也”によって連結される複数フレーズの関係の有無を確認することにより、その難題は解決される。

6. おわりに

以上、本論では係る位置が異なった二種類の副詞“也”の使用例を取り上げ、文中での解釈法を推定する根拠について探った。その結論として、主語に当たる事物が集合体の一部を成す場合には“也”は主語に係り、事物が単数であり述部に当た

る動詞または形容詞フレーズの内容が“也”後部に記され、それが既述の内容とは異なる場合には述語に係るとの解釈を示した。また、“也”が述語に係る場合には前部に置かれた動詞または形容詞の目的語に当たる部分と後部に置かれた目的語との間に「同時存在」、または対立や連続、拡張等の関係が成立する可能性についても触れた。

用例出典

《文学作品》

- (子) = 茅盾『子夜』人民文学出版社、1982年。
- (紅) = 羅広斌、楊益言『紅岩』中国青年出版社、1977年。
- (駱) = 老舍『駱駝祥子』人民文学出版社、1979年。
- (雪) = 川端康成著、艾蓮訳『雪国』人民日報出版社、2000年。

《一般書》

- (中) = 李臨定著、宮田一朗訳『中国語文法概論』光生館、1993年。
- (漢) = 呂叔湘『現代漢語八百詞』商務印書館、1980年。

参考文献

《書籍》

- 相原茂等『中国語入門Q & A 101』大修館書店、1987年。
- 上野恵司／玄宜青『中国語考えるヒント』中華書店、1992年。
- 王力『中国現代語法』中華書局、1954年。
- 邢福義『漢語複句研究』商務印書館、2001年。
- 朱德熙『語法講義』商務印書館、1982年。
- 丁声樹等『現代漢語語法』商務印書館、1961年。
- アン・ハシモト著、中川正之／木村英樹訳『中国語の文法構造』白帝社、1986年。
- 馬真『簡明实用漢語語法教程』北京大学出版社、1997年。
- 馬真、郭春貴『簡明中国語文法ポイント100』白帝社、2001年。
- 北京大学中文系1955、1957級語言班編『現代漢語虚詞例釈』商務印書館、1982年。
- 李臨定著、宮田一朗訳『中国語文法概論』光生館、1993年。
- Leonard R. Palmer 著／寺沢芳雄訳『現代言語学入門』研究社、1979年。
- 呂叔湘『現代漢語八百詞』商務印書館、1980年。

黎錦熙『新著国語文法』商務印書館、1998年。

《論文》

相原茂「“也”の位置」、『お茶の水女子大学中国文学会報』第12号、1993年、114-126頁。

崔永華「不帶前提句的“也”字句」、『中国語文』第1期、1997年、18-24頁。

中川千枝子「漢語並列構造における接続詞と副詞の接続機能」、『中国語学』242、1995年、79-87頁。

馬真「説“也”」、『中国語文』第4期、1982年、283—287頁。